２０２２年度　近江ちいろば会の事業報告

1. 主な取り組み

①新規事業「小規模多機能型居宅介護事業所みなくちみんなの家」(仮称)の用地買収並びに基本設計が完了

みなくちエリアにおいて既設のデイサービス、グループホーム、ケアプランセンターに加え、更なる在宅ケアの拡充を目指して 2023 年 12 月開設予定の「小規模多機能型居宅介護事業所みなくちみんなの家」(仮称)の用地を 7 月に買収、12 月には基本設計が固まった。4 月以降、入札による建築業者の決定、安全祈願祭、着工と進めていく予定となっている。

②湖南市認知症地域推進事業の一環として地域講演会を開催

「ぼだいじデイサービスセンターいこい」の主催で、渡辺　哲弘先生をお招きし、「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」と題して講演会を開催できた。当日は、地域住民の方、民生委員の方、行政の方など約 80 名のご参加を得て、認知症についての学びの機会となった。

③地域の民生委員の方々の施設見学、事業所説明会を 4 回開催

湖南市内の各学区並びに全市内の民生委員の方々に、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所などを見学頂くとともにそれぞれの特徴をご説明し、地域との交流と理解促進の貴重な機会をもつことができた。

④各種学会で法人の取り組み・成果を発表

滋賀県老人福祉施設研究協議大会において「食堂でのフードロス削減の取り組み」、在宅死亡に関する研修会では「コロナ禍における看取り」について、また滋賀県認知症フォーラムでは、ぼだいじデイサービスセンターいこいが「有償ボランティア」の取り組み、滋賀県福祉学会では、ぼだいじデイサービスセンター虹での「ノーリフティングケアの実践」について発表することができた。

⑤地域貢献(利用者支援)活動

地域貢献活動として毎月 1 回「子ども食堂」や理学療法士による「フレイル予防教室」の開催、さらには認知症対応型デイサービス(中央デイサービスセンターしんあい)では、「たこ焼きの会」「お好み焼きの会」「本人ミーティング」「介護者(男性介護者)の集い」も定期的に開催できた。

⑥外国人雇用

4 月より介護福祉士養成学校に入学したミャンマーからの留学生 2 名を小規模多機能ぼだいじみんなの家にて、さらに 11 月からは同じミャンマーからの技能実習生

２名をグループホームみなくちみんなの家にて雇用。貴重な戦力として活躍してくれることを期待している。

⑦人材育成・研修

・グロービス経営大学院(単科生)の「クリティカルシンキング」を２名が、また「マーケティング経営戦略基礎」を４名の職員が学び、事業運営に役立てることができた。

・例年の管理者及び主任に加えて、新たに一般職員を対象とした「階層別研修」では榊原　宏昌氏による「リーダーシップと強み／チームワークと人材育成」と題してグループワークを中心とした多様な学びの機会となった。

・法人として推進している「ノーリフティングケア」は、ぼだいじデイサービスセンター虹、グループホームぼだいじ、小規模多機能ぼだいじみんなの家をモデル事業所として推進委員が中心となって職員への普及を図っている。中でもぼだいじデイサービスセンター虹は、滋賀県福祉学会にて実践発表し、「優秀実践賞」を受賞する成果を収めた。

⑧ＩＣＴ、ＤＸ化の取り組み

・ぼだいじホームヘルパーステーションでは、LINEWORKS のノート機能を駆使した業務改善に取り組み、利用者様情報を時系列に共有することを実現させた。

・また、法人本部では、従来給与明細を紙ベースで配布していものを法人内全職員が LINEWORKS に登録することから、Web による配信を新年度よりスタートするためのデモンストレーションを行った。

各事業所からの報告

1)ケアハウス「ピスガこうせい」

・年度当初は、3 室の空き室があったが、各方面への営業活動や広報などが功を奏して８月以降満室に結び付けることができた。

・生活支援の一環として、コロナ禍ではあったが工夫を凝らしたキッチンカーや衣類の移動販売の受入れ、また歌う会や演奏会を徐々に復活させ、ケアハウスの生活を楽しめる機会づくりに取り組んだ。

2)ぼだいじデイサービスセンター虹

・理学療法士が中心となりノーリフティングケアの取り組みを継続することができた。また、リフトの導入により移乗にあたって利用者様の安心安全を確保するこ

とができた。

・選択制プログラムに新たに「買い物外出」「歌声コンサート」などを取り入れ、利用者様のワクワクが止まらない楽しいデイサービスづくりに取り組めた。

3)ぼだいじデイサービスセンターいこい

・滋賀県認知症フォーラムで「有償ボランティア」についての発表や湖南市認知症支援推進事業の一環として、渡辺哲弘氏による地域講演会を成功裡に開催することができた。

・歯科衛生士の職員が入職したことで、「口腔ケア」の充実を図ることができた。

・利用者様の居場所づくりに積極的に取組むことで、開設以来の最高収益をおさめることができた。

4)中央デイサービスセンターしんあい

・8 月より近隣のコンビニで利用者様が製作したエコバッグを設置させていただき、社会とのつながりを創出することができ、利用者様、職員の励みとなった。

・湖南市あんしん相談員活動の一環として、「本人ミーティング」「介護者の集い」「たこ焼きの会」「お好み焼きの会」を定期的に開催し、利用者、ご家族のご相談等に応じる機会を持つことができた。

5)ぼだいじ居宅介護支援センター

・地域つなげ隊(主任ケアマネの活動グループ)の活動や地域ケア会議に参加することで地域との繋がりをさらに深めることができた。

・滋賀県介護支援専門員協議会の活動をケアマネジメントのスキルアップに繋げることができた。

6)ぼだいじホームヘルパーステーション

・LINEWORKS のノート機能を駆使し、職員、ケアマネ、訪問看護職員との情報共有化と業務連携の効率化が図れた。

・湖南市からの受託事業として、子育て支援、ひとり親家庭家事援助、多胎児家庭育児支援にも取り組むことができた。

7)グループホームぼだいじ

・新型コロナウィルス感染を予防対策として、入居者とご家族様とのオンライン面会の継続や日々の様子の写真や動画をご家族にご覧いただけるように工夫できた。

・入居者様には朝夕の散歩や昼間の活動により、夜間の安眠、不穏の軽減や居場所・生きがいづくりに努められた。

8)小規模多機能型居宅介護事業所ぼだいじみんなの家

・職員、主治医、看護師との連携体制を整え、年間で 3 件の在宅看取りを行うことができた。

・ミャンマーからの留学生を受け入れ、介護技術や認知症ケアなど指導することで一人での夜勤も従事できるまでとなった。

9)グループホームみなくちみんなの家

・昨年度から全室に「眠り SCAN」を導入し、入居者の安全と職員の負担軽減に繋がっている。また、入居者様に寄り添った介護と在宅医の定期的な往診により前年度より大幅に空き室が減少した。

・11 月よりミャンマーからの技能実習生を受け入れ、教育指導することで本人のスキルアップや日本語習得に結び付いているとともに職員自身のモチベーションアップにもつながっている。

10)デイサービスセンターみなくちみんなの家

・利用者様やご家族の気持ちに寄り添える取り組みとして、「誕生日のリクエストメニュー」提供や「感謝カード」の発行に取り組めた。

・定期的に SNS にて事業所の取り組みや情報を発信できた。

11)ケアプランセンターみなくちみんなの家

・地域包括支援センターとの関係性を深めることができ、新規の紹介に繋がるとともに大幅な管理件数の増加が図れた。

・みなくちみんなの家の他事業所(グループホーム、デイサービス)の運営支援を行うことができた。

12)ぼだいじ訪問看護ステーション

・地域支援の一環として、9 月より理学療法士が中心となり、「フレイル予防教室」を毎月 1 回開催できた。

・前年度より利用者、訪問件数も増加し、3 月度は訪問延べ人数が約 750 人に達した。

13)デイケアの家おしどり

・生活リハビリと機能訓練、さらには遊びリテーションとの連携により利用者様の身体、生活を支える取り組みが継続できた。また、法人の業務改善活動では、「利用者様を安全に送迎するために」をテーマに改善に取り組み、ＱＣ大賞を受賞できた。

・今年度は、延べ利用者数、収入も過去最高を記録することができた。

14)ゆめとまの家おしどり

・生活リハビリと園芸療法や「ちょいケア」などの取り組みを 1 年間通じて実施できた。

・毎月の「ジャンピング委員会」の開催や職員間のミーティングにより利用者の予定数と実際の差異の要因を考えて数値化して管理していく習慣が根付いた。

15)総合事業ふれあいの家おしどり

・開所５年目を迎え、コロナ禍ではあったが、感染予防対策を講じ季節を楽しむ行事や四季折々の草花や景色を観にドライブにも出かけることができた。

・お便りの発行やブログのアップを継続して行う事ができた。

16)総合事業ホームヘルパーステーション

・営業時間の明確化や提供範囲を限定することをケアマネに訴求し、ご利用者数の増加に結び付いた。

17)食堂

・自立支援の一環として、食事提供プログラムとしてカレーレク、やきとりレク、バーベキューレクの拡充が図れた。また管理栄養士が他事業所に出向き、利用者様にヒアリングを行い多様な食事提供に応じることができた。

・フードロスや経費削減に「食委員会」を通じて積極的に取組むことができた。

18)法人本部

・小規模多機能型居宅介護事業所みなくちみんなの家(仮称)の開設に向けての用地買収や基本設計のサポート、補助金申請など計画に沿って進められた。

・外国人雇用では、ミャンマーからの留学生２名、技能実習生２名を受入れ育成をサポートに取り組めた。

・また、地域貢献活動としての講演会開催や民生委員様の施設見学、事業所説明の機会をサポートできた。

・階層別研修、新人研修、法人内研修(5 回)の実施により人材育成に努めた。

・ＤＸ促進を行い、事業所の効率化に寄与できた。